

生徒指導通信『井野の白波』は、本校ホームページでも見られます。

「特定小型原動機付自転車」の新たな交通ルールが7月1日から適用開始

【車体の大きさ】長さ：190cm以下 幅：60cm以下

【車体の構造】 時速20kmを超えて加速することができない構造であること。

走行中に最高速度の設定を変更することができないこと。

オートマチック・トランスミッション（AT）であること。

最高速度表示灯（灯火が緑色で、点灯または点滅するもの）が備えられていること。



いわゆる電動キックボードのことです。年齢制限有り、免許不要、ヘルメット着用努力義務です。
電動キックボードを登下校に利用することは禁じます。（生徒手帳173ページに掲載済み）

今学期の交通事故が10件（1年生6件 2年生2件 3年生2件）



上の図は、危険地帯にある交差点の一つです。

昨年度もこのすぐ東で高校生の事故が起きています。どんな危険が予想されますか？

当時、『井野の白波』でも取り上げましたが、現1年生への具体的な紹介を怠ってしまいました。申し訳ありませんでした。『井野の白波』のバックナンバーは全て本校ホームページに掲載していますので、そちらを参照してみてください。

「危険地帯」と言っても、最低限のルールを守りさえすれば恐れることはありません。一時停止と安全確認、そして左側走行です。生徒のみなさん、それらのことができないのであれば、このような交差点の通行は避けるべきです。

交通社会の秩序を乱してはいませんか？ 人の幸せを脅かしていませんか？

この機会にぜひ自分自身の行動を見つめ直してください。第1学期の振り返り課題とします。



図はいずれも Google map により作成

この地域の特徴は、真っ直ぐに伸びる国道354号線バイパスに対して斜めに伸びる道路が交差していることです。

昨年度も説明したように、この斜めの道路というのは「用水路」をベースにした路線です。斜めの道路が存在するために、各交差点に角度がついてしまい危険度が増しているのです。

「ヘルメットを着用した高校生」を車のドライバー（筆者の私見）から見ると・・・

- 目立つので、早い段階で存在を認識します。白色ヘルメットであればさらに早い。
 - 自転車の安全意識が高いと感じ取り、ドライバー側の気持ちが一層引き締まります。
 - あごひもを留めていない。ハンドルにぶら下げている。
- この状況からどのような印象を受けるかについては皆さんが想像してみてください。
- 自分自身のために、家族のために、社会の人たちのために、命をたいせつにしよう。

交通安全教室 感想文優秀作品（抜粋）

【1年 K.Oくん】

交通安全教室に参加して自転車の乗り方についての理解を深めることができたと思う。また、過去に自転車でおこなってしまった危ない行動についても振り返ることができ、それについては一歩間違えていたら事故になっていたかも知れないと思った。これまでに自分は、信号が点滅している状態で進んだり、一時停止も軽く速度を落とすだけということがあった。また、歩行者の間をスピードを出したまますり抜けるということをやってしまった。さらに、道をスマホで調べながら片手で運転してしまったこともあった。これらのことは事故になっていた可能性があると感じて今日の話聞いて思った。また、自分では気づいていないがさらに危ないことをしている可能性もあるので、まずは事故を起こさないことを最優先にして安全第一で自転車に乗ることが重要だと感じた。

【1年 R. Aさん】

交通安全教室を終えて、私は、自転車事故は自分にとってとても身近なものだと実感しました。私が普段登下校中に通る道が危険な場所だと先生が説明していました。自分では今まで全く危険な場所だとは感じていなく何も考えずに通っていました。しかし、先生の説明を聞いて、道が急激に曲がっているところは車の死角になってしまい、衝突する可能性が高いと知りました。私自身も、車が来ているかよく確認せずに自転車で走っていたので、自分が車の死角になっていないか注意し、見通しの悪いところではゆっくり走行したいと思います。

【2年 A. Nさん】

危険予測力について学びました。いくら交通ルールを守っていても、危険予測力が無ければ事故に遭ってしまうのだと思いました。車視点からすると、乗っている人の視界は右方向であるので逆方向から来るものは見えにくいということを教えていただいたので、自転車に乗っているときは車の人の視界のことも頭に入れて走行するべきだと思いました。

また、自転車はなるべく矢羽根を走行するという、やむを得ない場合は歩道の車道に近いところを徐行するというのを学びました。今まで矢羽根の上を走行することが怖く、歩道を走っていたのでこれからは車道を通るようにしようと思います。どうしても危険だと判断した場合は、状況をよくみて最善の方法をとれるよう臨機応変に対応しようと思います。

【2年 A. Wさん】

改めて交通事故の恐さを認識することができました。実際に事故が起きた瞬間を捉えた車のドライブレコーダーの映像を観たときは恐怖に包まれました。一瞬の気の緩み、妥協の積み重ねが悲惨な事故を招くことになるのだと思い知りました。

車を運転している人とのアイコンタクトはとても大切だと思います。私も以前事故に遭いかけたことがあります。そのときは信号の無い横断歩道を渡ろうとしたのですが、両方の車が一定時間停止してくれたので渡ろうとした瞬間、片側の車が発進したので轢かれそうになりました。すごく恐かったのが今でも鮮明に覚えています。私と同じように、車を発進させた運転手にも恐怖を与えてしまったと思うので、それからはしっかりアイコンタクトを取るようにしています。「かも知れない運転」についてもとても役立つと思ったのでぜひ今後の生活に活かしていきたいです。

【3年 H. Sくん】

私は、自転車や自動車、自転車と歩行者が互いに思いやりをもつことが大切だと思った。確かに自転車と自動車が互いにアイコンタクトを取れば事故は減ると思うが、それには互いが互いを思いやり、気を遣っていないとできないことだと思う。自転車を走行中も、自分だけ進めればよいのではなく、自分と同じように進みたい自動車があるのかもしれないと周りに気を配ること、それはつまり「危険予知力」とも言い換えることができるかもしれません。

【3年 H. Sさん】

先生の話聞いたとき、学校から少し出ただけで事故を起こしやすい場所がこんなにもあるのだと思いました。私は、学校の周りこそ安全で危ない所は少ないと思っていましたが、

それは間違いだったと気づくことができました。

また、警察官の話聞いたとき、私たちが普段普通に自転車をこいでケガをしないで帰ってこられるのは当たり前のことではないとわかりました。急いでいる時、音楽を聴いている時、「ながら運転」をしている時、人はどうしても周りに目を向けることができません。自転車をこぐ人の一時的な感情や行為によって周りに迷惑をかけたたりケガをさせたりすることがあってはいけないと思います。

review 危険予測力 死角 思いやり アイコンタクト ヘルメット

脳は豆腐のように軟らかい

一時停止を怠り進もうとすると、たいせつな人の顔を思い浮かべてほしい。



新体操部 今夏、全国高校総体へ



体育館玄関前を彩る花5種



北の都 札幌に舞え 美しく 華やかに 麗しく

新体操部が2年連続で、インターハイに出場することになりました。おめでとう！